

# リレーションシップ向上につなげる症例検討会

○堀口 優季、○吉田 倫子、池方 香里 (○: 発表者)

ミキ調剤薬局

## 【目的】

服薬サポート中に患者様より得られた情報を共有する事で、応需医療機関数及び薬剤師数の多い薬局内でのコミュニケーションをはかり、調剤・服薬サポートを円滑にしながら、最終的には患者様にフィードバックする。

## 【方法】

月に1回、土曜日の午後を利用して、ミキ調剤薬局待合室にて10名前後で約1時間テーマ毎に話し合う。

第一回症例検討会；実施日時 平成21年9月5日(土)16時～17時

実施場所 ミキ調剤薬局待合室

参加人数 9人

## 【結果】

### テーマ①妊娠希望時の処方変更

- ・リマチル→アザルフィジン、プレドニン
- ・セレクトール→インデラル
- ・メルカゾール→プロパジール
- ・カロナールは妊娠中でも使用可

◎ 上記内容に関して、添付文書からは確かな根拠と言えるデータは得られなかったが、Drによって使い分けをしている事がわかった。

### テーマ②適応外使用

- ・チラージン；抗うつ薬の作用増強(オーグメンテーション療法：抗うつ薬増強治療)

### テーマ③漢方薬

- ・ツムラ31；片頭痛の予防。証と関係なく投与した場合、効果があるのは3割程度といわれている。

## 【考察】

添付文書には記載されていない様々な情報が得られると共に、調剤室内でのつながりが密になった。同じ病院でも先生により薬の選択が異なる事が考えられる為、今後は先生の名前も確認した上で、情報の収集、共有をはかっていきたい。また、回を重ねる事で先生の意味をスムーズに患者様へ伝え、患者様とのリレーションシップを深められると期待できる。